

大正5年5月5日木藤精一郎創立

やまゆき会会報



平成31年4月号

例 会 報 告

鈴鹿山脈： 綿向山(1110m) 中級 D

2月3日(日) 曇り 担当:藤堂尚久 参加者 7名

大阪駅前を車で7時に立ってのち2時間弱、山麓登山口の御幸橋駐車場に着いた。行程説明やストレッチ、装備を整えスタート。登山ルートは、樹氷の絶景を楽しみに、比較的緩やかでよく整備された表参道、及び直登の尾根(冬期ルート)に行くこととした。

最初は、雪浅い西明寺川沿いの林道を歩き、ヒミズ谷出合小屋へ。ここからが表参道、早めにアイゼンを装着する。単調な植林帯内の九十九折りの道を1合目から3合目へ進むと、あざみ小舎が現われる。板壁にカウンターがついた東屋風建物で小休止をとる。サクサクと足裏に優しい雪道となり、ジグザグに登りを繰り返し、次には5合目に赤い屋根の避難小屋があった。「夢咲の鐘」は自由に鳴らすことができる。このコース、よく整備された登山道と共に人工物・山小屋が多いのも特徴、安心して登れる所以であろう。明るい斜面が広がり、竜王山に続く尾根や琵琶湖方面が一望できる。5合目を過ぎ、7合目の行者コバまでくるとブナ林に包まれる。昔、修験者が服装などを整えた場所であるとのこと。祠があり、役行者像と不動明王像が祀られている。この先の参道は二分されており、右の夏道は危険なためバリケードがはられ、左側が積雪期の登山道となっている。本日一番の急登を頑張って登る。登りきるとトンネル状の樹林に入るが、樹氷は気温上昇によりほとんど消えていた。山頂直下の分岐を経て、まもなく綿向山頂上に到着した。



山頂には大嵩神社が祀られ、「青年の塔」と名付けられた大ケルンがある。積雪は50cm 位、南鈴鹿の展望台といわれる眺望が広がっている。東方には、重厚な雨乞岳を中心に、尖った山容の鎌ヶ岳に続く鈴鹿連山が一望できる。微風であり寒くはない山上台地で昼食をとる。この後、山頂直下の分岐に戻り、北尾根をイハイガ岳、竜王山分岐まで行く15分ばかりの稜線歩きを楽しむ。途中、ブナの珍変木(幸福のブナ)では何人かの人が木の輪をくぐった。時間的にも余裕を残し、もと来た道をたどり下山する。

登り返しもなく快調に歩を進め、1時間半で御幸橋に戻り、無事山行を終えた。近畿各地、今年は暖冬で積雪少ないとのこと心配したが、2日前の降雪で雪山山行を果たせた。次の機会には、さらに好条件の下、樹氷満開、スノーシュー堪能の山行を皆さんとしたいものである。

コースタイム

御幸橋(8:50)～ヒミズ谷出合小屋(9:08-9:15)～あざみ小舎(10:05-10:15)～5合目小屋(10:35)～行者コバ(10:55-11:00)～綿向山(11:30-12:00)～幸福ブナ～イハイガ岳分岐(12:15)～行者コバ(12:45-12:50)～5合目小屋(13:00)～御幸橋(14:10)

京都：嵐山・嵯峨野周遊 入門A

2月3日(日) 曇り後小雨 担当：北川弘康 参加者 19名

阪急嵐山駅前広場に集合する。厳冬期に加え午後から天候が崩れる予報に拘らず 19 名も参加していただいた。簡単にコース説明し、天候の不安があるので歩きながら体をほぐしていただくことで、速やかに嵐山東公園に向けてスタートする。

嵐山東公園の「小倉百人一首」の石碑を見ながら進み、松尾橋近くで衣服調整、小休止する。橋を渡り暫くで「梅宮大社」に着く。酒造の神様、子授け、安産の神として知られている。大社を出てすぐに「千代の古道」の標識があり、平安時代に天皇や貴族が通ったとあるが、今はせまい住宅道になっている。住宅街を抜け「車折神社」に着く。境内にある芸能神社はあらゆる芸能・芸術の祈願所で玉垣には有名な芸能人の名前がズラリと並んでいた。車折神社を通り抜け京福電鉄線路を超えて、しばらくして広沢池に着く。畔の休憩所で昼食とする。

日差しはなく寒いですが、風も穏やかでゆっくりと休憩できた。トイレがないこともあり昼食後すぐに出発する。農道を通り抜けると大沢池、「大覚寺」に着く。真言宗大覚寺派の大本山である。境内で集合写真を撮る。お参りし、次に嵯峨の釈迦堂として親しまれている寺「清凉寺」に着く。これからの道は外国人が多く、竹林では、記念撮影をしているカップルを多く見かけた。次は「野宮神社」縁結び、子宝安産の神様であり、大勢で賑わっていた。着物姿の外国人が多く見受けられた。直ぐに亀山公園の入口に着く。



展望台に行く予定にしていたが、予報どおり小雨が降り始めた。危険を避けて、展望台には希望者のみとし、ここで解散とした。(展望台には 2 名、その他は散策路から渡月橋を渡り嵐山駅に帰った。嵐山駅で展望台に向かった 2 名の帰着を確認した。)

コースタイム

阪急嵐山駅(10:10)～嵐山東公園(10:15-10:30)～梅宮大社(11:00-11:10)～車折神社(11:40-11:50)～広沢池・昼食(12:20-12:50)～大覚寺・大沢池(13:10-13:40)～清凉寺(13:50-14:10)～野宮神社(14:20-14:30)～亀山公園(14:40)解散

例会企画委員会

2月6日(水) 担当:例会委員会 18時40分～20時30分 参加者18名
プレラにしのみやにおいて2月度運営委員会に続いて例会企画委員会を開催し、2019年度下半期の例会計画案を作成した。

続いて、例会計画書の作成について説明、確認した。また、現行の「やまゆき会グレード基準」の表現を一部書き換えた改訂案について説明、標高・歩行時間の基準設定、難易度の記述などについて意見交換を行った結果、さらに検討を続けて再度文案を提案することとした。



近年の異常気象で台風など荒天が頻発することが今後も予想されるため、荒天時の例会中止を想定して、「延期」の場合の代替え日程を例会計画に可能な範囲で盛り込むよう例会委員長として委員の皆さんに依頼した。

金剛生駒紀泉山地：生駒山～高安山 上級C

2月10日(日)晴 担当:松川元信 参加者 7名
(一社)大阪府山岳連盟主催の生駒チャレンジ登山大会のコース(交野市私市～高安山 32km)の2/3の約20kmを歩きました。



JR野崎駅前に集合して、点呼、装備確認、準備体操とコースの変更を説明しました。予定の「むろいけ園地」は、昨年の台風21号の影響で道が一部で封鎖されているためです。慈眼寺の山道を登り本堂前にて衣服調整を行いました。飯盛山の登山コースに入り、途中の分岐で「大東市野外活動センター」に下り阪奈道路に向かいました。道路沿いの近鉄バス生駒山登山口西バス停で休息を取り、生駒山の縦走路に入りました。なだらかな道を進み「燈籠ゲート」で一休みし、くさか園地に入り「辻子谷ハイキングコース」に出会いました。休息後にこのハイキングコースから生駒山に直登し、山頂の三角点前で記念撮影を行いました。近くの休息所で昼食をとり、体調

不良の一人は近鉄生駒ケーブルで下山していただきました。

午後は6名で高安山を目指しました。晴れ渡った天気の中、大阪平野や六甲山脈を展望しながら進み、国道308号線と交差する暗峠で休息をとりました。緩やかな起伏のコースを進み鳴川峠と十三峠で休息を取り、立石越から平群町に下る広い山道を進みました。途中で見落しそうな分岐を南に折れて信貴生駒スカイライン道路のトンネルをくぐり広い道に出て登り返すと高安山に着きました。脚を痛めた方もいたため山頂には行かずに近鉄西信貴ケーブルの高安山駅に到着しました。ゴール地点のここで記念撮影を行いケーブルカーで下り近鉄信貴山口駅構内で解散しました。

コースタイム

JR野崎駅(08:40)～慈眼寺(8:55-9:05)～大東市野外活動センター(9:50)～近鉄バス生駒山登山口西バス停(10:10-10:17)～燈籠ゲート(10:53-10:58)～くさか園地・辻子谷ハイキングコース出合(10:40-10:55)～生駒山山頂(12:15-12:55)～暗峠(13:26-13:33)～鳴川峠(14:00-14:05)～十三峠(15:00-15:05)～立石越(15:35)～高安山(15:55)～近鉄西信貴ケーブル高安山駅(16:05-16:25)＝近鉄信貴山口駅(16:32)

六甲山地：有馬三山・七曲滝（氷瀑・読図） 中級D

2月17日(日) 曇り時々雪 担当:西山弘一 参加者 11名

今年は暖冬で残念ながら氷瀑は期待できないため、参加者は少数と想定していたが、集合時刻の15分前で既に7名の方が到着され、例会予告で案内の次の電車での参加者を合わせると準備していた資料が不足するのでは？と冷や汗をかくも、計11名の参加で何とか資料は足りたことにホットする。

集合時刻の9時30分に駅横の駐車場に移動し、雪の可能性を勘案して準備した地形図入りクリアポケットを配布し、本日のコース概要と読図学習内容(中級編で現在地確認がテーマ)を説明後、ストレッチ体操を行う。難路・悪路に備え、捻挫予防に「くるぶし下」もストレッチ。私が先導し途中で止まる地点を地図上で探し当てること＝現在地の確認をやっていただくことを説明して出発した。

最初は標高点(・396m)でストップして現在地を問うも、これはほぼ全員正解。目的は高度計を合わせるために止まったことを説明。次のストップ地点は、地図上にない登山道(近道)を通りその先の地図に記載されている登山道に合流する地点でストップし、



ここは何处か？を地図上で示してもらっても正解者は1名のみ。但し正解者も明確な理由での正解ではなく残念。ここでの現在地確認のポイントは、廻りを見渡して登山道の特徴(直線)を掴み、登山道の方角をコンパスで確認することで、現在地が確認できることを理解いただく。次のストップ地点は今度も地図にない近道の谷道を進んだ突き当たりである。ここでも正解者は少数で、ここが尾根と尾根を繋ぐコル(鞍部)であり、谷を突き上げた地点であることを見破ることが重要であることを説明。また、谷道の終点はコルかピークであることを覚えていただく。最初のピークである526mには地図上にない登山道からアプローチして到着。ピークからは2つの登山道があり、このうち落葉山への登山道はどちらか？を当ててもらっても、半々に分かれる。ここでコンパスと地図を使つての進行方向の決定の仕方を学んでいただいた。落葉山～灰形山～湯槽谷山の尾根では、隠れピーク探しや山頂近くの現在地確認を行いながら、木段の急登を汗をできるだけかかないよう(雪山の基本)ゆっくりしたペースで歩行した。

灰形山で昼食。湯槽谷山では藤堂さん手作りの「かりんとう饅頭」を堪能した。湯槽谷山からは急坂、難路・悪路が待ち受けるため、読図は湯槽谷山までとし、以降はこれまで手にしていた地図をポケットに仕舞って歩行に集中する。湯槽谷では「赤テープ」を探しながら、これまで以上に周囲を注視して歩く。紅葉谷へ合流し七曲滝へのアプローチでは急斜面の隘路を、谷に滑落しないよう足元に集中して歩行する。七曲滝はやはり残念ながら氷瀑とは程遠く、つららが下がっているだけ。気をとりなおして集合写真を撮って、有馬温泉駅へと下山した。

コースタイム

神鉄有馬温泉駅(9:30-9:50)～526m(10:55-11:05)～落葉山(11:20-11:25)～灰形山(12:10-12:35)～湯槽谷山(13:30-13:40)～湯槽谷經由紅葉谷出合(14:30)～紅葉谷經由七曲滝(15:10-15:20)～紅葉谷經由有馬温泉中之坊瑞苑前で解散(16:25)

飛騨山脈 A班 上高地スノーハイク (合同バス山行) 中級 C

2月23日(土)～24日(日) 担当:北川隆史 参加者13名

2月23日(土) 晴れ

バスの車窓から見る空はからりと晴れて明日のスノーハイクに期待を膨らませていたところ、一宮ジャンクションを経て美濃市あたりで渋滞に巻き込まれてしまった。事故のため、登り線は通行止めで一般道に出よとの電光掲示が読める。すぐ先の出口まで2時間かかるという事態となった。ようやく美濃ICを出ると既に11時を過ぎ、当初予定の12時に釜トンネル前に到着、B班テント泊組下車というスケジュールが不可能となってしまった。A班が宿泊する中の湯温泉旅館と連絡を取り、旅館の駐車場付近でテントを張る許可を得たので、全員で中の湯温泉旅館に向かうことになった。バスはようやく高速道に戻り、高山方面に向かった。

16時過ぎに中の湯温泉旅館に到着し、テント設営するB班と別れ、宿舎に入った。

コースタイム

西梅田・バス出発(6:15)＝中の湯温泉旅館ゲート(15:40-15:50)＝(マイクロバス)＝

中の湯温泉旅館(16:05)

2月24日(日) 晴れ

5時45分、まだ暗い玄関先にA・B両班が集合、旅館のマイクロバスに乗り込んで、10分程



で釜トンネル前に到着した。準備体操を終え、勾配約10度、1300mの釜トンネルをゆっくりと進み、次の上高地トンネル(600m弱)を出た所で、凍結路面に備えてアイゼンを装着する。足達者のB班はアイゼン無しで先行する。車道を進むと青空のもと、遠くに穂高連峰が眺められ思わずカメラを向ける。

大正池ホテルそばの公衆トイレ(一人ずつしか使えない)を利用するため長めの休憩を取る。自然研究路に入り

り、スノーシュー・ワカンをつける。積雪はザクザクに凍った状態でスノーシューは不要なのだが、せっかく用意したので付けることにした。

広い河原の雪原に出て、まぢかに聳える焼岳のもと、写真を撮ったりする。自然研究路をロープに沿って進み、田代橋を渡って梓川右岸に移る。ウェストン碑付近で舗装路に出る所でスノーシューなどを外す。コースはすぐに雪道になるが、間もなく河童橋に到着した。橋のたもと近くにベンチ、テーブルがあり、B班が昼食を終えて出発しようとしていた。入れ替わり我々も昼食をとることにする。旅館の用意してくれたおにぎり弁当に加え、鍋にお湯を沸かして、即席麺を作ってピクニック気分を楽しむ。

再びアイゼンを付け、河童橋に並んで記念撮影を撮る。梓川左岸の車道を歩いて下山の途に着く。上高地バスターミナルでトイレ休憩の後、車道の雪をザクザク踏んでひたすら歩く。上高地トンネルの入り口でアイゼンを外し、一気にトンネルを二つ通って、釜トンネル中の湯側出口に予定より少し早く着いた。



前日の移動では渋滞により予定変

更を余儀なくされたが、本番の日は素晴らしい天候に恵まれ、絶景を楽しむことができて幸いだった。

コースタイム

中の湯温泉旅館(6:00)=(マイクロバス)=釜トンネル・中の湯側(6:10-6:30)～上高地トンネル・上高地側口(7:10-7:23)～大正池ホテル(7:45-8:05)～自然研究路～田代池(8:45)～田代橋(9:20)～河童橋(10:20-11:10)～バスターミナル(11:30-11:45)～大正池ホテル(12:20-12:25)～上高地トンネル・上高地側口(12:45-12:55)～釜トンネル・中の湯側(13:25)～トンネル前バス乗車(13:53)=西梅田(19:50)

飛騨山脈：B 班 上高地テント泊（合同バス山行）上級 D

2 月 23 日(土)～24 日(日) 担当:松川元信 参加者 6 名

2 月 23 日(土) 晴

JR大阪駅西側・大阪モード学園前に集合して、A 班スノーハイクのメンバーと合同で中央交通の貸し切りバスに乗り出発しました。しかし、東海北陸自動車道での事故の影響で現地到着予定時刻より 4 時間も遅れました。テント泊を予定した上高地小梨平への到着が、日没後になるために行先を変更しました。中の湯温泉旅館の方と交渉した結果、宿の入口への道路際の雪上でテント設営の了承を得ました。平湯バスターミナルで待機中の B 班の渡辺さんと合流して、バスは安房トンネルを抜けて長野県側の釜トンネル近くに出た所で、宿からの送迎用のマイクロバスに乗換えました。バスの運転手の話では、今年の積雪は例年の 1/3 で非常に少ないとのことでした。

到着した中の湯温泉の標高は 1530m で、冬季閉鎖中の国道 158 号線の安房峠(標高 1790 m)と釜トンネル入口(標高 1315m)の中腹にあります。当初予定したテント場の小梨平(標高 1514m)の標高と近似の高さでした。日没時刻の 17 時半まで約 1 時間半に迫り、テント設営のために雪面を固めて凹凸を少なくして雪中に竹ペグを埋めて張り綱を固定しました。設営作業と並行して夕食の支度を行い、メニューはエビピラフ・煮込みハンバーグ・ラーメンでした。翌朝の炊事用のお湯を各自の保温ボトルに分配しました。食事が終わる頃には日没で暗くなり冷え込みが厳しくなってきました。夜空を仰ぐと真上にオリオン座が大きく輝いていました。早々にテントに入りシュラフに潜りこみ 20 時頃には就寝しました。残念な事にメンバーの一人が、炊事の準備中に凍結した路面で転倒して後頭部を打ちました。安全のためテント泊から旅館泊に変更していただきました。予期しないことが続いた一日になりました。

コースタイム

JR大阪駅西側・大阪モード学園前(6:15)=平湯バスターミナル(15:15-15:30)=中の湯温泉旅館(16:05)



2 月 24 日(日)晴

午前 3 時 30 分に起床。外気は放射冷却により氷点下 10℃に下がる。ヘッ

ドライトを点けてシュラフなどを片付けながら装備を行動用とデポ用に整理する。隣のテントでは早くもお湯を沸かしていただき、それを各自の昼食用のアルファ米パックと保温ボトルに入れました。テントの撤収作業では、埋めた竹ペグが氷結した雪で簡単には取れませんでした。行動に不要なテント装備を宿に預けて、日の出前の午前 6 時にマイクロバスに乗り釜トンネルに下る。全体朝礼と準備体操後に A 班と別行動をとりました。計画した徳本峠への登山は時間の余裕がないために諦めて、上高地周辺のスノーハイクに切り替えて小梨平を目指して行動を開始する。長く急勾配の釜トンネルでは汗が噴き出した。上高地のトンネルを抜けると風景が一変して、梓川を挟んで樹氷林が広がり、右岸には噴煙を上げる焼岳の銀嶺が見えました。上高地公園線は雪が少なくアスファルトの路面が見えていました。私達はアイゼンを装着せずに雪上や氷結箇所を避けながら進みました。大正池に近づくと、雄大な穂高連峰の姿が現れて立ち止まり眺めました。帝国ホテルを過ぎると、道の両側に 100 頭近くのニホンザルの親子の群れに出会いました。私達の姿には目もくれずに笹の葉を食べていました。上高地バスターミナルで休息後に、先へと進むと河童橋に着きました。橋と穂高連峰を背景にして記念写真を撮りました。橋を右岸に渡りベンチで食事の準備を始めました。柔らかくなっていたアルファ米を温め直して食べました。山の上から日が差して暖くなり食事が終わる頃に、A 班のメンバーが右岸の方から到着しました。

後半の行動は小梨平行きを止めて釜トンネルに引き返すことにしました。梓川右岸を進みますが、融雪の道路を避けて雪原の河原に出て焼岳を眺めながら進み、土手を上がるとウエストン碑が有り休息をとりました。西穂高岳登山口を過ぎて田代橋から左岸に渡りました。自然研究路を進むと広い雪原に出ました。そこからは素晴らしい穂高連峰の絶景が見えて記念の集合写真を撮りました。田代池に立ち寄り大正池の手前から上高地公園線の道路に出て釜トンネルに向かいました。見納めにと穂高連峰を振り返りカーブミラーに写るメンバーの姿を撮影しました。釜トンネルの入口ではザックを降ろし、晴天に恵まれた日和に感謝して、雪の斜面に寝て大の字になり紺碧の空を見上げました。トンネルを出てデポの装備をザックにパッキングしていると、A 班のメンバーが到着しました。バスは予定時刻に釜トンネルを出発して、平湯バスターミナルで渡辺さんと別れました。帰路は渋滞もなくJR大阪駅前に到着して解散した。



今回の例会は、予想外のトラブルに遇い計画通りの行動ができませんでした。しかし、幸運にも快晴の天候に恵まれ、上高地の絶景を眺めながらの楽しいスノーハイキングになりました。メンバーの皆さんのご協力に感謝いたします。

コースタイム

中の湯温泉旅館(6:00)＝釜トンネル入り口(6:10-6:30)～上高地トンネル出口(7:30)バスターミナル(8:35-8:50)～河童橋(9:00-10:00)～ウエストン碑(10:55-11:00)～田代橋(11:10)～田代池(11:30-11:40)～大正池(11:50)～釜トンネル入口(12:30-12:40)～釜トンネル出口(13:10-13:53)＝平湯バスターミナル(14:05-14:20)＝JR大阪駅前(19:50)

六甲山地：(観音山～ごろごろ岳) 初級C

2月24日(日) 晴 担当:中川輝夫 参加者 19名

2月の最終日曜日、2月にしては寒くない、穏やかな晴天の下、集合場所の阪急夙川駅に19人の仲間が参集。集合場所のバスターミナルは狭いので鷲林寺の境内でコース説明、点呼、ストレッチをすることとした。鷲林寺バス停下車、鷲林寺境内までの坂道の参道を10分ほど登った。点呼の時、本日の体験者を紹介。コース説明、ストレッチ後、参加者が多いので、2班とした。リーダーは、1班を本日の例会担当の中川、2班を中村彰利さん、最後尾を吉田慎平さんとして出発。

登山道はかなり急な直登コース、パノラマコース、一般コース、谷筋コースと4通りあるが、本日の例会は初級Cなので、一般コースを登ることとした。30分ほど登り、パノラマコースと一般



コースの合流箇所です水分補給休憩。若干岩場もある登山道を10分ほど登り、観音山頂上到着。大阪平野、大阪湾、東六甲、北摂の山々を一望できたが、生駒山、葛城山、金剛山は春霞の状態で遠望できなかった。10分ほど景色堪能後、記念撮影をして、ごろごろ岳へ出発。なだらかな、歩きやすい登山道をゆっくり進みごろごろ岳到着。日曜日なので、他の登山グルー

プとかち合ったが、幸い観音山の方へ出発されたので、ここで昼食とした。

30分の昼食時間後、2回目の集合写真を撮り下山開始。柿谷コース後半は急坂でごろごろの岩(露岩帯)の道であると参加者に注意して下山。全員無事予定時間に水車谷バス停に到着。ここで、本日の登山の解散とした。元気な方々13人は約20分かけて、阪急芦屋川駅まで徒歩で降りた。

コースタイム

阪急夙川駅:集合(9:20)～阪急バス夙川駅(9:35)＝鷲林寺バス停(9:45)～鷲林寺境内(10:00)～観音山(11:00)～ごろごろ岳・昼食(12:00-12:35)～柿谷尾根～阪急バス水車谷バス停(14:10)解散